



## 校長室だより～湘南の空～

第 24 号

令和 5 年 7 月 21 日

今年度の生徒の皆さんの活躍には目覚ましいものがある。

第 11 回湘南グローバルプログラムが 3 月 26 日から 4 月 3 日までの 9 日間、米国ニューヨーク市にて行われ、2 名の教員の引率のもと 31 名の生徒が参加した。4 日間の事前研修を受けた参加者は、ニューヨークでの日々の英語研修に加えて、9.11 メモリアルとタイムズスクエアの観光、コロンビア大学見学、国連本部訪問、湘友会ニューヨーク支部との交流、セントラルパーク散策、大学 1 年生レベルの模擬授業受講、現地高校でアメリカ人の高校生とペアを組んでの 1 日体験授業、メトロポリタン美術館での美術鑑賞、最終プレゼンテーション、自由の女神の見学といった濃密な日々を過ごした。政治・経済・文化など世界の中心とも言われるニューヨークでアメリカの空気と文化にさらされることにより、参加者は日本文化を再発見し自分という人間がどんな人間なのか、将来は何をしたいのかのヒントを得ることができたのではないかと。

フェンシング部の関東大会出場（栃木県 6/9～6/11）、インターハイ出場（北海道 8/2～8/3 男子のインターハイ出場は 1992 年以来）、弓道部 関東大会神奈川県予選入賞 国体予選会入賞、陸上競技部 県総体入賞 関東大会出場（山梨県 6/16～6/18）、ラグビー部 関東大会神奈川県予選ベスト 8、卓球部 関東大会神奈川県予選 女子学校対抗 5 位入賞、野球部神奈川県大会春夏連続ベスト 16（春は 10 年ぶり、夏は 5 年ぶり）。結果には結びつかなかった活動もプロセスを最優先して研鑽したことが次への糧となる。

文化祭（6/17、6/18）での演奏、発表、展示等は大変な盛況であり、湘南の文化を地域の方々に楽しんでいただいた。

合唱コンクール（7/13）で素晴らしい演奏を満喫することができたのは、文化部連合委員会の卓越した企画・運営力と参加した皆さんが協力したことによる。4 年ぶりの全員合唱も感動的だった。

学習面では好きな分野にとことんのめり込む生徒が増えてきたという印象だ。勉強で培った粘り強さを部活動に生かし、部活動で得た集中力を行事運営で発揮、チームづくりの難しさに気付いて想像力が豊かになるといった相乗効果が湘南のいたるところで見られる。

今後の皆さんの挑戦が楽しみでならない。

### 「全県立高校の電気を再エネに！」湘南生の声、今春実現

「学校で地球にやさしい電力を使いたい」。地球温暖化に歯止めをかけようと、再生可能エネルギーで発電した電力を全神奈川県立高校で使ってほしいという本校 98 回生でハンドルネーム「ふきたろう」さんの願いが今春、実現した。県は 2023 年 4 月から全 165 校に再生可能エネルギーで発電した電力を導入した。

「大きな一歩ですごくうれしい。他の都道府県の高校にも広げていきたい」。

(7月2日朝日新聞)

2021年8月3日の教育新聞の記事によると、同日、ふきたろうさんは神奈川県庁を訪れて黒岩祐治知事に2万3000人余りの署名を手渡した。「黒岩知事は『高校生が問題意識を持って行動を起こしたことは素晴らしい。県立高校への太陽光発電の導入に取り組みたい』」。

ふきたろうさんが問題意識を持って行動を起こしたのは火力発電が地球温暖化の原因の1つであるにもかかわらず、教室のエアコンなどの電気が火力発電で賄われており、地球温暖化の授業をするために地球温暖化を進めていることに矛盾を感じたからだという。「活動に賛同してくれたクラスメートと5人で、この活動をスクールとエコロジーを組み合わせた『schology (スコロジー) キャンペーン』と名付け、2021年3月から環境への学びを深めながら署名を集めた。」

校長室だより第20号で「イヤだな」と思った経験や気持ちを思い出し、若者に寄り添えるような医者になった遠見才希子さん(78回)を紹介したが「自分が必要としているものは、ほかの人も同じように必要としているのかもしれない」ということは、ふきたろうさんにも当てはまるのではないか。疑問や不満を放置せず、解決に向けて自ら動いてみることは、共感の輪を広げ、未来を切り拓く力につながるに違いない。

地球の未来を自分事としてとらえ行動するふきたろうさんの今後の活躍を期待している。

### **Always do what you are afraid to do の精神は湘南から世界へ**

本校第20代校長川井陽一氏が6月23日に逝去した。享年71歳。

川井氏は2007年から5年間の在任期間に湘南高校歴史館を開館、創立90周年式典を挙行、根岸英一先生のノーベル化学賞受賞記念講演を開催するなど本校の教育活動に尽力した。また、初代赤木校長の精神に改めて注目し「校長室だより」を発行する中で赤木イズムを推進した。

川井氏の座右の銘だった“Always do what you are afraid to do.”を「最も困難な道に挑戦せよ」と意識するやたちまち全校生徒・職員に広まり見事に定着したと伝えられている。

湘友会ホームページの「創立90周年記念事業へのお礼とお願い」(2009年9月30日)として川井氏は湘南高校歴史館の開館について次の文章を残している。「赤木愛太郎先生以来の『湘南』の歴史、伝統は、もとより、卒業生の皆さまのいわば人間性を形づくるものとして、第一義的にはお一人お一人の内面にこそ貯えられているものかと思えます。一方、そのような人を育てた教育とはどのようなものであったかということについて、形あるものを残し、その精神を伝えていくことは『湘南』のみならず、わが国の教育を考える上でも高い意義を有するものと考えています。」

川井氏の功績に敬意を表し、衷心よりご冥福をお祈りいたします。